KONANBUS

BUS PLUS PROJECT バスぷら バスぷらすプロジェクト

コロナ禍における
特別支援学校での完全オンライン MM 教育の実践

大野悠貴（名古屋大学）　菊池武史（弘南バス株式会社）　小枝洋平（弘前大学教育学部附属特別支援学校）
松山泰芳宏（弘南バス株式会社）　加藤尚徳（弘南バス株式会社）　佐藤尚樹（弘南バス株式会社）　太田愛（弘南バス株式会社）

▶ 実施に至った経緯

弘南バスでは、平成 28 年度より毎年、弘前大学教育学部附属特別支援学校中学部において知的障害のある子どもたちに向けた MM 教育を行っている

8月～

12 月頃の実施に向けて準備を開始

10 月

弘前市内にて新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生 市内各学校は 10 月 19 日から 2 週間の臨時休校

11 月

学校再開後、**コロナ対策による制約下で実施可能な内容**を検討

▶ プロジェクトの内容

コロナ対策による学校側の制約（今回の場合）

(1) 外部講師の入校不可
　→学校に出向いて授業を行うことが困難
(2) 生徒の校外活動不可
　→「乗り方教室」や「車庫見学」等、**実物が使えない**

授業目的（学校側設定）

生活単元学習※の一環として・・・
　(1) 公共交通について知る・親しみを持つ
　(2) バスの利用方法やマナーについて学ぶ

※生活単元学習とは、「児童生徒が生活上の目標を達成したり，課題を解決したりするために，一連の活動を組織的に経験することによって，自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。」
（特別支援学校学習指導要領解説総則等編 p252）

子どもたちの目の前に実物がない中で、「いかにしてバスというものを伝えるか」という挑戦

●実施概要

日　時：　令和２年 12 月９日（水）　10：20 ～ 12：05
対　象：　弘前大学教育学部附属特別支援学校中学部 1~3 年生の生徒 16 名（第１学年６名、第２学年６名、第３学年４名）
内　容：
(1) 既存ツールの紙芝居「リンゴちゃんバスでおでかけ」を用いたオンラインでの**「マナー学習」**
(2) 弘南バス弘前営業所からの**「オンライン車庫見学」**
(3)360 度カメラでバス車内を撮影した画像や映像、バス部品等を活用した**「仮想バス乗車体験」**


「マナー学習」の様子
実物の音声を流し、リアルのバス利用を演出

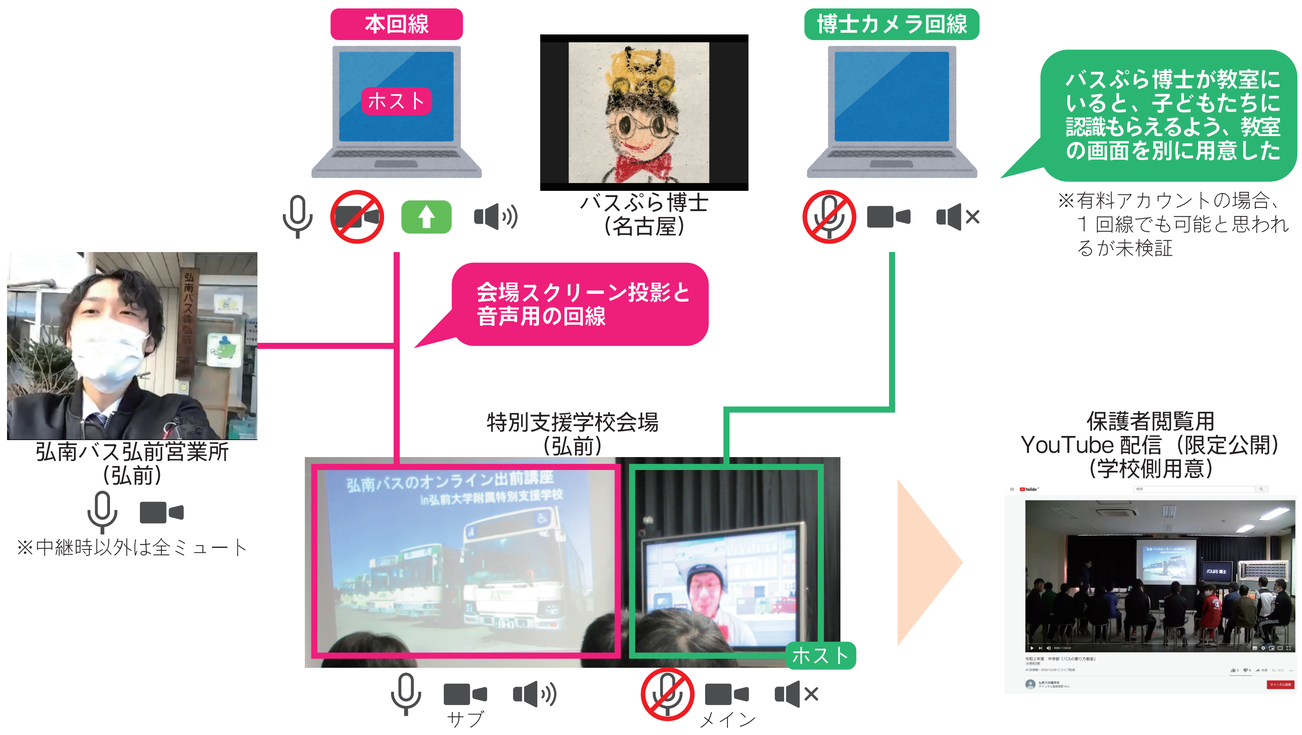

「オンライン車庫見学」の様子
“どんな人が働いているのか？” を軸に紹介


「仮想バス乗車体験」の様子①
実物のバス部品や映像で、バス利用をイメージ


「仮想バス乗車体験」の様子②
360 度カメラによる画像を用いてバス車内を探検

●実施体制

Web 会議サービス「Zoom」を使用、２回線用意した



▶ 効果

●「仮想バス乗車体験」では重度障害のある生徒も、用意したつり革につかまりながら車窓映像を見てバス利用をイメージ
　⇒　**障害の程度にかかわらず、授業目的は達成された**
●詳細な効果測定は現在実施中だが、出前講座中は子どもたちの関心の高まりや積極性が見られ、手ごたえは感じている

▶ 完全オンラインの利点・欠点

〇リアルでは危険な整備作業の様子等も見せることができる
〇車庫内の移動時間など、時間的制約がなくなる
〇アフターコロナにおいて、遠隔地の学校での出前講座実施の可能性が見出された
▲学校側・先生方の準備量が増加